



未来へ続く一歩

武蔵野市のまちづくり



市民とともに、まちづくりの歴史を今日まで紡いできた武蔵野市。
成熟した文化や環境への意識、市民自治の気風は、武蔵野市の誇りです。
このまちに暮らし、学び、働くことを、誇りに思えるまちであり続けるために、
さまざまな支援の充実を図りながら、未来へとその歩みを進めています。

01

未来へ続く一歩 武蔵野市のまちづくり

健康・福祉



あなたの笑顔のために

年齢や障害の有る無しにかかわらず、
住み慣れた地域で暮らし続けることができる…。
そんなまちであるために、共助の精神と充実したネットワークを生かして、
武蔵野市ならではのまちづくりを進めています。



支え合い、助け合うことで
誰もが安心して
暮らせるまちであるように。



毎年10月に開催されるシルバースポーツ大会。

「つながる」ことで生まれる支え合いの気持ち

武蔵野市では、地域リハビリテーションの理念に基づき、年齢や健康状態、障害の有無にかかわらず、誰もが自分の意思のもと住み慣れた地域で暮らし続けられるまちづくりを推進しています。

2025年に向けて本市が目指す高齢者の姿として、「いつまでもいきいきと健康に」「ひとり暮らしでも」「認知症になっても」「中・重度の要介護状態になっても」「住み慣れた地域で生活を継続できる」ことを目標とし、その達成に向けて地域包括ケアシステムを、「まちぐるみの支え合いの仕組みづくり」と言い換え、市民と行政が一体となった取り組みを進めています。

また、心のバリアフリー推進、障害者の雇用機会拡大・就労支援にも力を入れており、一人ひとりが個人として尊重されることはもちろん、誰でも地域におけるさまざまな活動に参加し、豊かな関係性の中で、個性を発揮し活躍できる社会の実現を目指しています。

さらに、24時間利用可能な在宅生活支援サービスの提供、ユニバーサルデザインの推進、福祉に関わる専門職の資質向上、人材育成など、基盤整備にも力を入れています。多方面からアプローチを図り、武蔵野市を、誰もがずっと暮らせるまち、暮らしたいまちにしていきます。

健康づくり支援センターでの
介護予防の取り組み。





住み慣れた地域で暮らし続けるために。

在宅医療と介護連携の 取り組み

武蔵野市では、医師会・歯科医師会・薬剤師会などの医療関係者と、介護サービス事業者との連携により、たとえ中・重度の要介護状態となっても、住み慣れた地域で自分らしく生活できるよう、医療、介護、予防、住まい、生活支援が一体的に提供される「地域包括ケアシステム」を推進してきました。医療機関と介護関係者との連携体制強化、生活支援や介護予防活動をしている団体とのネットワーク構築といった一連の取り組みは、医療と介護の両方を必要とする市民の暮らしを支える環境づくりへとつながっています。

広げよう！

まちぐるみの支え合い。

ケアリンピック武蔵野

高齢化が進む現代、介護人材の不足は大きな課題であり、介護や看護に従事する人たちがやりがいをもって働き続けることができるよう、平成 27 年よりケアリンピック武蔵野を開催しています。「まちぐるみの支え合いの仕組みづくり（地域包括ケアシステム）」の実現に向け、介護・看護永年従事者表彰、介護サービス事業者・市民団体の先進的な取り組み事例の発表、介護・看護職による手作り演劇の上演などを行っています。



妊娠期から始まる
切れ目のない支援。

ゆりかごむさしの

子育て中でも、地域で安心して生活できるよう、妊娠期から乳幼児期までの家族を切れ目なく支援する体制を推進しています。平成 29 年よりスタートした「ゆりかごむさしの」では、見通しを持って子育てしてもらえるように妊娠届出時から保健師などの専門職が一人ひとりに寄り添った支援を行っています。



子どもたち一人ひとりが持つ
可能性と向き合います。

みどりのこども館

「子どもと親の元気を応援します」というテーマのもと、平成 21 年にオープンした施設です。おもちゃのぐるりん、こども発達支援室ウィズ、地域療育相談室ハビットの三つの事業を一体的に運営しています。同じ館内でそれぞれの事業の特色を共有できるメリットを生かして、一人ひとりに合った発達の支援を実践しています。





赤ちゃんから高齢者まで、世代を超えて笑顔が集まる場所。

テンミリオンハウス

地域住民や福祉団体が、年間 1000 万円（テンミリオン）を上限とした市の補助を得て、地域の空き家などを有効活用し、見守りや社会とのつながりを必要とする高齢者に、気軽に立

ち寄れる場所を提供しています。乳幼児親子なども来所でき、ショートステイを実施している施設もあります。



地域の支え合いが武蔵野流。「安心」「笑顔」を一緒に運びます。

レモンキャブ

バスなどの公共交通機関を利用することが困難な高齢者や障害者（要介護者や障害者手帳所持者など）の方を対象に、外出を支援するための移送サービスを実施しています。商店主を中心とした地域のボランティアが福祉型軽自動車を運転し、ドア・ツー・ドアのサービスを提供しています。

楽しく元気に
笑顔で！



Interview

いきいきサロン「オリーブサロン」

高齢者の介護予防、認知症予防を目的に、週1回集まってみんなで身体を動かしています。メンバーのほとんどが70代以上です。プロのインストラクターをお招きし、ボールやゴムを使った体操などを行っています。仲間とおしゃべりすることも大きな楽しみの一つです。これからもいきいきと楽しく活動を続けていきたいです。

なかの せつこ
中野 節子さん



02

未来へ続く一歩 武蔵野市のまちづくり

子ども・教育



未来をつくるあなたたちへ

まちの未来をつくるのは、子どもたちです。
地域の人々との出会いや見守り、社会との結びつきの中で、
次の時代の担い手たちが、健やかに成長します。
その笑顔こそが、まちの大切な宝物です。



子どもたちの可能性を
いつくしみ、守り、
育んでいくために。



思い思いに自由に過ごせる子どもの遊び場、プレーパーク。地域の大人が見守る中、木登りや工作、昔遊びに挑戦できます。

親子のまち歩きを助ける、
ベビーカー貸出しサービス
「ベビ吉」。中学生の提言
で始まりました。



温かい見守りの中、のびのびと育つ武蔵野っ子

子育て家庭への総合的な支援を行うとともに、子育て支援施設をはじめ、地域の方々とともに共助による子育て支援体制を整備することで、身近な地域社会とのつながりの中で安心して子育て・子育てできるまちづくりを展開しています。各家庭のニーズに応じた保育・教育環境を確保できるよう、保育コンシェルジュなどの相談窓口を充実させるとともに、最新の子育て情報にアクセスできる子育て応援サイト「むさしのすくすくナビ」の開設や待機児童解消に向けた保育施設整備に取り組んでいます。また、養育困難家庭・生活困窮家庭の支援も強化しています。

学校教育においては、国際化や情報化の進展など、

いかに社会が変化しようとも、子どもたち一人ひとりが多様な人々と協力しながら豊かな人生を切り開き、持続可能な社会の創り手となれるよう、知・徳・体のバランスのとれた「生きる力」の育成を目指し、セカンドスクールなど武蔵野市らしい特色のある教育を推進しています。

また、子どもたちの可能性を最大限に伸ばすため、一人ひとりの教育的ニーズを把握し、特別支援教育の観点からきめ細かな指導を充実させるとともに、スクールソーシャルワーカーなどの配置や関係機関との連携強化などによる教育支援に努めています。

02 未来へ続く一歩 武蔵野市のまちづくり

子ども・教育



遊んで、学んで、
仲間もできて。
親子を笑顔に。

0123 吉祥寺 0123 はらっぱ

「0123 施設」は、0～3歳までの乳幼児とその親を対象とした、いつでも自由に来館し、遊び、子育てについて学ぶことのできる施設です。遊びを通じた子どもの発達を促進するとともに、子育てについての相談や情報提供などの支援を行っています。子ども同士、親同士の交流を地域に広げることを目指しています。



一つひとつの家庭に寄り添い、
ご希望に合った保育サービスの情報を提供します。

保育コンシェルジュ

市内には認可保育所、認可外保育施設、幼稚園などのほか、一時保育、病児・病後児保育など多様な保育・幼児教育施設やサービスがあります。保育コンシェルジュは、保育士などの専門性を生かして、ご家庭の状況や希望に合った保育サービスの情報を提供します。また、土曜日や出張での相談、子育て支援や新規保育施設の案内、入所申請後の継続相談など、子育て世帯に対しさまざまな支援を行っています。



見るもの、聞くもの、触るもの。
全てが新鮮、驚きがたくさん。

セカンドスクール

セカンドスクールとは、市立の小学校5年生と中学校1年生を対象として、自然豊かな農山漁村で長期宿泊体験を行い、子どもたちの社会性を高める教育活動です。普段の学校生活（ファーストスクール）では体験できないような活動～田植えや稲刈りなどの農業体験、うどん・そば作り、草木染めなど～を授業の一部として実施し、子どもたちの豊かな感性や情操を育むとともに、知的好奇心や探究心を喚起し、課題解決への意欲や態度を培います。



自然の中で、仲間に囲まれて。
みんながほっとできる時間。

すくすく泉

旧私立泉幼稚園の跡地に開設した地域の団体が運営する子育て支援施設です。地域の親子が自由に遊び、交流できる「子育てひろば」を開放しているほか、早朝・夜間・緊急時・宿泊を含む一時預かりや小規模保育事業など、地域の力と特性を生かしたきめ細やかな子育て支援サービスを提供しています。



キーワードは、「ひらめく、かんじる、かんがえる」。
学ぶ楽しさを体験しよう。

土曜学校

学校週5日制の実施にあたり、子どもたちの「生きる力」を育むために体験活動を中心としたプログラム（ピタゴラスクラブやサイエンスクラブなど）を実施し、学校教育と生涯学習をつないでいます。



グローバル化する社会と、
向き合う力を身につける。

教育環境の整備

時代に対応した教育環境で学べるよう、市内の小・中学校全学級には常設型の電子黒板付プロジェクタ、書画カメラなどの ICT 機器が設置されているほか、デジタル教科書が導入されています。また、パソコンやスマートフォンなどを安全に使うため、情報モラルの指導にも力を入れています。



主役は学生一人ひとり。
自分たちの表現を今、伝えよう。

中高生世代広場

平成 29 年より試行としてスタートしました。中高生の意見を市政に生かしたり、学校外の幅広い世代とつながりを持つことなどを目的にしています。中高生が自らアイデアを出し合い、企画・立案したイベントやワークショップを開催しており、サポーター役として大学生も参加しています。



Interview

境おやこひろば

西部コミセンの「collabono コミセン親子ひろば」やリトミックをはじめ、いろいろなイベントを行っています。自分自身も含めた子育て中の女性を中心となり、当事者の目線を大切にした活動となるよう心がけています。共働き、片働きをはじめ、親の状況もさまざま。誰でも子育てや地域の情報が得られるようにしたいと考えています。

こにし みほこ
小西 美穂子さん

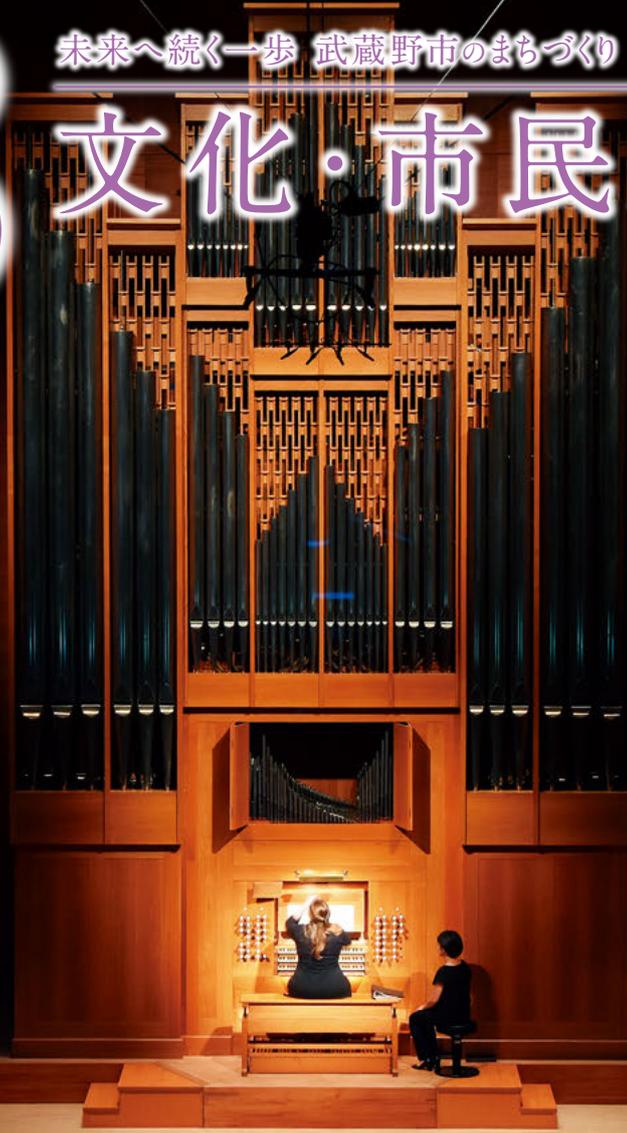
親子が楽しく
集える場に



未来へ続く一歩 武蔵野市のまちづくり

03

文化・市民生活



真の豊かさを得られるまち

グローバル化が急速に進む中、
ローカルなコミュニティの役割が見直されています。
武蔵野市では、多様性を尊重し合う中で、
地域住民の参加と対話をベースに、上質な暮らしが形成されています。



より良い暮らしのあり方を
市民とともに考え、
地域で実現していく。



コビス吉祥寺の正面に設けられた吉祥寺デッキ。さまざまなイベントに活用されています。

人と人との充実した関係の中で紡がれる文化

武蔵野市に根づく市民自治の意識は、文化や生活にも浸透しています。市内および近接の大学、クリエイターや研究者の存在、環境保全の意識、独創的な文化施設など多数の要素をもって醸成している市の文化には、市民同士がコミュニケーションを通じて互いに影響し合う中で、常に新たな創造がもたらされてきました。市ではこうした特質を存分に生かせるよう、文化振興や施設整備を進めています。

防災・防犯対策としては、市、関係機関、市民などが一体となって災害に強く安全なまちづくりを進

めています。防災訓練の充実や、住民主体のボランティア組織や団体による防犯パトロール、見守り活動などを推進しています。また、誰もが個性や価値観を尊重される社会の実現に向け、国際交流や人権教育、男女共同参画社会の啓発活動に積極的に取り組んでいます。

そのほか、地域フォーラムの取り組み支援や「コミュニティ未来塾むさしの」の講座拡充にも力を入れ、市民活動のさらなる活性化や地域人材の発掘と育成に力を入れています。



武蔵野市と友好関係にある市町村の特産品を吉祥寺でPR販売するアンテナショップ「麦わら帽子」。

03 文化・市民生活

未来へ続く一歩 武蔵野市のまちづくり



ここから何かが始まる。
みんなで考え、みんなで創る場所。

武蔵野プレイス

武蔵野プレイスは、図書館を中心として「生涯学習支援」「市民活動支援」「青少年活動支援」などの機能を併せ持った施設です。館内にはカフェもあり、本や活動を通して人と人が

出会い、それぞれが持つ知識や経験を共有しながら、知的創造や交流を生み出し、地域社会の活性化へとつなげていく「場=プレイス」となっています。



都市と農地の良い関係。
農地がもたらす恩恵を知り、守るために。

都市農業の保全

農地は農産物を生産し、都市環境を守るための大切な財産です。市では登録農地制度や各種補助制度の実施に加え、都市農業の確立・保全に向けた農家と市民の交流事業や、地産地消促進に向けた農地見学会などを行っています。環境に配慮した農業を推進するため、環境保全型農業資材の導入や有機質肥料、コンポストの使用などを進めています。



性別などにかかわらず、
誰もが“自分らしさ”を大切にできる社会へ。

ヒューマンあい

男女平等推進センター「ヒューマンあい」は、男女平等社会の実現に向けて設置された活動拠点施設です。一人ひとりが互いを尊重し、性に対して公平で、誰もが自分らしく生きられるまちづくりに寄与することを目的とし、講座・イベントの実施、女性相談、情報収集と提供、団体活動支援などの事業を展開しています。



気持ちのいい汗をかいて、
楽しく健康づくり。

スポーツ施設

市内には多くのスポーツ施設があります。武蔵野陸上競技場をはじめ、総合体育館、プール、テニスコート、野球場、柔道場、剣道場、弓道場、卓球室のほか、スケートボードなどができるストリートスポーツ広場、フットサルなどができる緑町スポーツ広場などがあり、ダンスやテニス教室といった多くの教室を開いています。

戦争の記憶を次世代へと伝え、
平和な未来の構築へとつなげる。

平和への取り組み

武蔵野市には、戦前から戦中にかけて、軍用飛行機のエンジンを生産していた中島飛行機武蔵製作所があり、ここを標的とした激しい爆撃を受けた歴史があります。このことを重く受け止め、市では、未来の子どもたちに平和な世界を継承していくため、戦争の悲惨さと、平和の大切さを発信するためのさまざまな平和事業を行っています。



武蔵野市民の大切な交流拠点です。
どんどん広がる仲間の輪。

コミュニティセンター

市民の誰もが自由に利用できる多目的施設で、市内 20 カ所にあります。各地域のコミュニティ活動や情報発信の拠点として利用されており、多目的室、会議室、学習室、調理室などさまざまな部屋を目的に応じて利用できます。



Interview

i-dream 吉祥寺

武蔵野市の創業サポート開設支援事業として誕生した、起業家支援サロンです。事業用スペースの貸出および創業の幅広い支援を行っています。キッチンやおしゃれな内装を活用し、女性の起業家による料理や美容講座などを開催しています。今後は農家と連携し、地方の食材を広める事業も支援していきたいです。

しずま としかず
静岡 俊和さん

チャレンジを
応援します





地域を熟知した市民が、
まちの至るところを回ります。

市民安全 パトロール隊

市内を3地区に分け、67名の隊員が専用のジャンパー、帽子、腕章を身に付け、登下校時を中心にパトロールを行い、市民の安全・安心感の向上のため、犯罪防止に取り組んでいます。

安心して過ごせるまちであるために。
隊員たちは今日も、任務遂行中です。

ブルーキャップ・ホワイトイーグル

青い制服と制帽で活動しているブルーキャップ。つきまとい勧誘行為の防止や路上宣伝行為などの適正化のため、吉祥寺駅周辺で指導にあたっています。また、ホワイトイーグルは、犯罪を未然に防止するために市内を巡回するパトロール隊です。白いパトロールカーの側面に青色の鷲の翼、ボンネットに黄色い鷲のクチバシが描かれています。



子どもも大人も、
一緒に学ぶ。

はらっぱ 防災フェスタ

毎年実施している「はらっぱ防災フェスタむさしの」は、体験型訓練、展示・啓発ブースおよび防災機関の活動展示など、防災意識の啓発に重点を置いたイベントです。子どもから大人まで幅広い世代の方が気軽に参加でき、防災意識の高揚および防災行動力の向上を目的としています。



災害は起こるもの。
周到な計画・準備で、被害を最小限に。

防災施設・設備

市では災害発生時、迅速な被害状況の把握、必要な救援活動および復旧作業を行えるよう計画、準備しています。災害対策、危機管理の拠点となる市庁舎西棟の防災安全センターのほか、市内に備蓄倉庫、非常災害用給水施設および災害用トイレなどを整備しています。



非常時にも冷静に。
助け合いながら、安全確保。

総合防災訓練

毎年10月下旬に、大地震の発生を想定した総合防災訓練を実施しています。市、防災関係機関、避難所運営組織および地域住民が一体となり、発災直後における対応訓練を実施し、初動態勢の充実強化を図っています。



地域の安全を守る、防災のエキスパート。

消防団

総勢260名からなる武蔵野市消防団は、市内全域を受け持ち区域として活動しています。団員は市内で災害が発生すると、仕事中でも各々の職場から出動し、消防署やその他の関係機関と一致団結して被害の軽減、防止のため、最前線で活動を行います。



「いざ」そのときに備えて。

自助・共助の推進

災害対策は、特に自助、共助が重要です。市では、自宅での生活継続の推進として、建物の耐震化、家具の転倒防止金具の設置、食料や災害用トイレなどの備蓄をお願いしています。また、災害時、市民がいち早く日常生活へ戻るよう、避難所運営組織を中心とした連携体制の構築を推進しています。

地域で「いざ」に
備えるために



Interview

境南地域防災懇談会

境南地域の避難所設置および自主運営の訓練を行っています。特に避難所まで移動が大変な高齢者対策が課題なので、各丁目の公園を緊急集合場所に指定し、情報収集カードを活用するなどして災害時に備えています。地域のみなさんの連携が必要のため、ぜひ訓練に参加してほしいです。今後は指導員を育て、次世代に取り組みをつなぎたいです。

おや てるお
大矢 照男さん



04

未来へ続く一步 武蔵野市のまちづくり

緑・環境



緑うるおう都市のために

緑と水、生物多様性、公害、ごみ、エネルギー…

「環境」という言葉には、さまざまな要素が含まれています。

武蔵野市は、市民とともに多方面から環境保護活動へと取り組み、
いつまでも健康的に暮らせる美しいまちをつくっていきます。



鮮やかに生い茂る緑と
生きものたちの気配。
緑とともにある都市生活。



毎年開催のごみゼロデー市内三駅周辺一斉清掃。多くの市民が参加し、きれいなまちづくりを実践しています。



関前公園トンボ池で行うかいぼり。池の水を汲み出して池内の清掃や外来種などの駆除、水草の植え替えなどを行います。

緑あふれるスマートシティへと向けて

緑は市民の共通財産という認識のもと、武蔵野市では市民と協力し、緑と共生する持続可能な都市を目指してきました。まちの緑化推進では、市有地・民有地双方の緑を保全・創出するとともに、緑や水循環の啓発にも力を入れています。

エネルギー利用については、電力やガスの自由化が進んでいる実情を踏まえたうえで、エネルギー消費のスマート化に向けた啓発活動を実施すると同時に、太陽光発電設備の活用などを進め、エネルギー消費に配慮したまちづくりを推進してきました。ごみ

問題については、平成 29 年より稼働開始した新・武蔵野クリーンセンターの最新設備を活用し、ごみ処理の環境負荷と経費低減を進めると同時に、市民や事業者へ啓発活動・情報提供を積極的に行い、さらなるごみ排出量減少を目指しています。

そして、良好な生活環境を守るため、騒音・振動・悪臭・大気汚染などの公害の防止を図るとともに、グローバル化や気温上昇が引き起こす感染症媒介蚊などの新たなリスクへの対応策も進めています。



持続可能な社会のために。
 新しい循環システムを生み出す。

エネルギーの地産地消

市では、低炭素社会実現に向けて、市内でエネルギーを創り（地産）、使う（地消）、「エネルギーの地産地消」を推進しています。太陽光発電システム導入などクリーンセンターのごみ発電のほか、地中熱活用や家庭の使用済み油を回収しエネルギーとして活用する検討を進めています。

楽しみながら、考えよう。
 未来のために、今できること。

むさしの 環境フェスタ

むさしの環境フェスタは、市民（団体）・事業者・行政が協力して開催する市最大の環境イベントです。各団体の取り組みの紹介や環境に関する展示、体験型イベントなどを通して、子どもも大人も楽しみながら環境について理解を深めることができます。

むさしの環境フェスタをきっかけに、環境にやさしい取り組みがつながり、広がっていくことを目指しています。



最先端技術のごみ処理と、
 景観に配慮したデザイン。

新・武蔵野 クリーンセンター

昭和 59 年から稼働していた旧クリーンセンターに替わり、新・武蔵野クリーンセンターが平成 29 年に完成しました。最新の設備を整えたこの施設は、厳しい排ガス自主規制のもとで安全に稼働しています。プラットホームは、騒音やにおい対策のため地下化しています。また、施設ではごみ発電設備で発電した電力を利用しているほか、市役所などの公共施設にも電力供給しています。さらに、ガスコージェネレーションも導入しており、災害時も焼却炉の再稼働と市役所などへの電力供給ができます。武蔵野の雑木林をイメージした建築デザインとごみ処理の流れがわかる自由見学コースが特徴です。最先端技術を駆使し、さまざまな環境課題に取り組んでいます。



小さな工夫で、大きく変わる。
エコライフの実現に向けて。

ごみチャレンジ 600 グラム

市では、家庭系ごみ1人1日当たりのごみ量を、当時の多摩地域平均である約 700 グラム以下にしようと「武蔵野ごみチャレンジ 700 グラム」を宣言し、市民の協力のもと、平成 21 年に目標を達成しました。平成 22 年からは、新たに「セカンドステージ! 武蔵野ごみチャレンジ 600 グラム」を宣言し、さらなるごみ削減を目指しています。



豊かな緑がもたらす恵みを
次の世代にも渡すために。

緑を基軸にしたまちづくり

都市の緑には、レクリエーション機能、都市景観改善、生態系保全などの役割があることから、公園緑地の整備・拡充や、公共施設の緑化、民有地の樹林、生垣や農地の保全に力を入れています。また、水辺空間や緑道の整備を図るなど緑のネットワーク化を推進するとともに、生物多様性に関する情報提供・学習機会の提供を行っています。

たくさんの恵みをもたらす森林。
共同で守り育てていこう。

青梅市二俣尾、奥多摩 市民が守る森

森林に恩恵を受けている都市部の自治体として多摩地域の森林の荒廃問題に向き合うことを理念に、平成 13 年に「二俣尾・武蔵野市民の森」を開設し、多摩の森林保全活動や、地元地域住民との交流に基づく自然体験を促進してきました。また、平成 16 年には「奥多摩・武蔵野の森」も開設し、奥多摩町と共同で、裸地化した森林の整備に取り組んでいます。「二俣尾・武蔵野市民の森」では、毎年「森の市民講座」を実施しています。



みんなで
水について
学びましょう



Interview

水の学校サポーター

「水の学校」とは、上下水道をはじめ誰もが恩恵を受けている暮らしの中の「水」について学べる講座です。食品工場の水に関する業務に長年携わってきたので、興味を持ち参加したのですが、今後もサポーターとして、市民の皆さんが水について学ぶお手伝いをできたらと思います。小学校に向いている授業もやっていきたいですね。

はらだ ともふさ
原田 知房さん



05

未来へ続く一歩 武蔵野市のまちづくり

都市基盤



誰をも笑顔にするまちに

良好な住環境を維持するとともに、
計画的な都市基盤の更新により、持続可能なまちづくりを進めています。
さまざまな観点を取り入れながら、
武蔵野にふさわしいまちづくりを展開しています。



住む人も、来る人も、
「ここにいたい」と
思えるまちに。



「まち」の特性を生かしつつ、より良いまちづくりのために、開発の基準や手続きなどを定めた「まちづくり条例」を施行しています。

鉄道立体交差事業（連立事業）の完成に伴い、武蔵境駅北口駅前広場を整備し南北一体のまちづくりを進めています。



一人ひとりが主役のまちであるために

武蔵野市では、さまざまな主体と連携しながら、すべての人が安全かつ快適に過ごせるまちづくりを展開しています。

駅周辺では、吉祥寺駅改良事業による大ひさし設置、南北自由通路の整備、武蔵境駅における鉄道立体交差事業と北口駅前広場の整備など、南北一体のまちづくりを展開してきました。

良好な住環境を創出するため、緑を基本とした景観まちづくりの展開、まちづくり条例による開発調整

を行うとともに、安全・安心のまちを実現するため、歩行者、自転車空間の確保、交通ルールやマナーの啓発、耐震施策、空き家対策などを進めています。

道路、上水道、下水道など市民生活・経済活動に欠かせない都市基盤については、公共施策等総合管理計画を踏まえた個別計画により、防災性、安全性の向上を図り、計画的かつ効率的な整備、維持管理を実施していきます。

05 都市基盤

未来へ続く一歩 武蔵野市のまちづくり



Before



After



健康づくりやエコにもつながる自転車。
気持ちよく利用できる環境づくりを。

自転車対策

コンパクトで平坦な地形から駅周辺へ1日当たり約3万台もの自転車が乗り入れています。歩道にあふれる放置自転車を一掃し、まちの美観や景観、安全・安心で快適な歩行空間を創出しました。引き続き、歩行者・自転車・自動車が共存できる自転車の走行空間の整備、駐輪場の拡充、放置自転車対策、交通ルールやマナーの啓発、保険加入の推進など、ハード・ソフトの両面から、自転車対策を進めていきます。

小回りのきくムーバスが、
気軽なお出かけをサポートします。

ムーバス

平成7年に全国初のコミュニティバスとして生まれたムーバスは、7路線9ルートが整備され地域の頼れる交通手段としてすっかり定着しています。1日約7000人、年間約260万人が利用し、平成27年には運行開始20周年を迎え、平成28年には累計乗客数4000万人を突破しています。高齢の方や子ども連れの方などにもやさしく、地域に密着し愛されるムーバスを目指しています。



Before



After



安全で美しい機能的なまちへ。

電線類地中化

市では、「景観」・「歩行」・「安全・安心」の向上を目的として、景観上・安全上重要な路線などを対象に、これまでに計8路線に対し、電線類の地中化を図る道路の景観整備を行

いました。今後も、更に防災上・景観上重要な路線などを対象に、計画的・継続的に無電柱化整備を進めていきます。